



Subaru

男声合唱団

ニュース783 '22.6.22

6月17・19日

「新生「昂」新指揮者のもと、新入団員・日曜団員もレッスン参加！新曲に取り組む



□6月17日(金)18:00~20:30 昂定例レッスンが開催されました。奥村さんの体操のあと、坂井先生の発声の練習。坂井先生の指揮で、新曲「フニクリ・フニクラ」、「種子(たね)」と、大阪南部合唱発表会予定曲「いのちの歌」をレッスンしました。

参加者は、全24名、部員22名(T1:7名、T2:5名、BR:5名、BS:5名)

ピアノ伴奏は門万沙子さん。

□6月19日(日)14:00~17:00 ねむかホールで昂定例レッスンが開催されました。

奥村さんの体操・千秋さんのヴォイストレーニングのあと、坂井指揮者は、9月24・25日開催「65th 国鉄のうたごえ祭典 in おおさか」の「青年部合唱指導」のため、遅れるということで、最初のレッスンは、伊藤さんが代行して指揮。練習曲目は、「川の流れるように」「キエフの鳥の歌」「昂」と「種子」をレッスンしました。

続いて、16:30~17:00の30分間、坂井先生指揮で、「地雷ではなく花をください」を歌いました。

参加者は、全28名、合唱部員26名(T1:8名、T2:6名、BR:7名+本並先生、BS:5名、内:日曜団員3名)ピアノ伴奏は森二三さん。

■連絡事項

(1)技術部より

当面の練習曲

- ・大阪南部合唱発表曲;「いのちの歌」「地雷ではなく花をください」
- ・5月からの新曲:「種子(たね)」「ワクワク」「フニクリ・フニクラ」
- ・今後の練習予定曲:「フィンランディア」(出版譜面:関忠亮詞)、「遥かな友に」の2曲(男声4部アカペラ練習曲)(増える可能性あります)
- ・「日曜団員」練習曲:「川の流れるように」「キエフの鳥の歌」「昂」の3曲(「友の会」会員の歌を兼ねます)

(2)合唱発表会

・南部地域(7月24日(日)) 鶴見区民センター 参加費 600円(個人負担) 昂審査員:大島さん

- ・大阪合唱発表会(9月11日(日) LIC はびきの
LIC の発表曲を変更するかどうか？今後のレッスン進行状況を見て検討する。
- ・創作発表会:9月19日(サンクスケア堺):参加するかどうか、技術部会・運営委員会で検討中。
千秋・森 作詞作曲:「こんなに長く」「平和の歌で戦争やめさせよう」「ヒロシマ 母の怒り語りつぐ」
希望曲3曲のうち1曲を千秋さんに決めてもらい、練習方法等これから決める。

(3)「昂友の会」がスタートしました！(推進委員会より)

7月3日(日)14:00~16:00 ねむかホールにて、「友の会」の「練習会(うたう会)」を開きます。
「友の会」の練習曲は「川の流れるように」「キエフの鳥の歌」「昂」の3曲です。
現在、「友の会」会員は6名です。また日曜団員は7名です。ご家族・友人・知人のみなさん・他の合唱団員のかたがたにも積極的に入会・入団をお誘いください！
友の会の皆さんと、14回コンサート(次回コンサート・)で3曲を合同演奏します。

(4)劉偉(リュウイ)さんから昂へお便りが来ました。(立川 2022. 6. 23(メール便))

「昂合唱団が結成22周年になり、本当におめでとうございます。
ご一緒に演奏できたのは僕らにとって大変光栄なこと였습니다。
皆さんの練習スケジュールを最初に見ていた時にびっくりしました。こんな熱心に練習されていてらっしゃることに尊敬します。
そして、長年続けて毎年こんな素晴らしい発表もされて、頭を下げるしかありません。
一つ一つの音符で繋がってきた作品をみなさんの美声で繋がって行ったのは世の中一人一人との出会いと同じではないかと思えます。音楽に対する真面目な態度。ステージに対する大切さ、いろいろな面で僕らにも大変勉強になるエネルギーでございます。ナーダムをご一緒にさせた時もワクワクな気持ちで演奏できました。僕らの一生の思い出になりました。
人生の先輩たちと楽しく演奏会ができることに感謝します。
いつか内モンゴルでの公演を新しい夢にしました。
また、10月1日にご一緒になれることに感謝しています。是非、在日の中国の皆さんにもその美声を聞かせてくださいませ。本当に本当にありがとうございました。」

(注)「13回コンサートで出演いただいた「スーホのモンゴル楽団」から連絡が入りました。
「中日音楽会？」をリュウイさんたちが中心になって開催する。昂にも出演して欲しいとの依頼が届いております。10/1(土)ドーンセンターにて
昂の出演については、運営委員会で、参加しようと決定。昂メンバー、何人が出演可能なのか？
10分程度(長くても12分くらいまでの)出演時間とのこと。全国合発へ向けた曲の練習にもなるのでは？

(5)団内コンサート(2022)の開催について

10月30日(日)第5定例レッスン日を団内コンサート日に変更する。担当委員を中心に、開催に向けて準備していく。

(6)14回昂コンサートの開催計画について

来年度のさまざまな行事日程から見て、2023年秋を予定し、検討を始める。
テーマ:世情からみて、「戦争か、平和か、」「戦争反対」「憲法9条を守れ」等も含めて..
選曲等も技術委員会・運営委員会で、至急検討を始めていく。

(7)運営委員会の日程変更

7月の運営委員会:7月17日(日)11:00~を中止。同日17日(日)17:30~19:30へ変更。
8月の運営委員会:8月21日(日)は中止。7月31日(日)10:00~へ変更。

(8)広報部より

- ・「昂ニュース」の発行について。編集内容の改変、(何を掲載するか?)編集体制の強化(各パートサブマネージャの協力を得て、多くの人に記事を書いてもらう。)
- ・「本並先生 60 年の合唱人生」をテーマに、インタビュー(聞く会)を開催予定

(投稿)

ヴォルガ・アムール・バイカル湖・合唱交流の旅、中国ハルビン・満蒙開拓団慰霊の旅そして、2019 年タリン音楽祭の旅などで、ガイド役を務められ、本並先生と親交を深められました、ユーラストラベルの滝澤さんから、心温まる投稿をいただきました。

本並先生と共に

滝澤 泰斗

「私が還暦を迎えるちょうど一年前、縁あって東京のユーラスツアーズにお世話になることになりました。その時に、実は大阪に営業所があるが、女性ばかりで物騒なので、大阪勤務をしてもらえないかという話があり、若干の逡巡があるものの大阪という未知な場所で晩年を旅行の仕事しながら用心棒で過ごすのも悪くないと考え、人生初めての転勤生活が始まりました。

最初の頃は俳人の金子兜太先生の縁で始めた俳句の仲間やら、旅行で親しくなったお客様を週末には訪ね歩いていましたが、そのうち土日が何とも退屈になり、何かをやろうと思い立った時、ロシア民謡を歌っている合唱団コスモスを知り、昔取った杵柄が生きるか腕試し半分で、土曜日の夕方、レッスンに励むことになりました。

そこで、指揮者の本並先生と知り合い、いつも一人の夕食が、メンバーの方達との夕食に変わり、いつしか歌うこともさることながら、下戸な私をやさしく包んでくれた居酒屋夕食会が待ち遠しくなる始末。

しかし、そんな一年が続きましたが、2年目の春の定期健診で腎機能に障害が見つかり、私よりカミさんが驚いてしまい、止む無く東京に戻ることになりました。

ある意味短い時間ではありましたが、濃厚な人間関係のおかげもあり、2012年には、サンクトペテルブルグからモスクワまでの1週間のクルーズ旅行をしながらの演奏旅行を本並先生に持ち掛けたところ、メンバーの皆さんも大いに乗り気になってくれ、合唱団コスモスのメンバーに、歌わない一般の方を交え、演奏旅行に出かけることになりました。

旅はサンクトペテルブルグを皮切りに、スィヴィール川、ラドガ湖、木造教会で有名なオネガ湖、白湖からボルガ川の本流、ヤロスラブリを経由してモスクワ運河に入りモスクワまで・・・船中では、ピアノのあるレストランやバーで午前、午後にレッスンができるようにプログラムをし、その合間に観光や自由時間を楽しみ、ロシアのひと夏の得難い経験をしました。

船にはさまざまな国の観光客が乗り込んでいて、私たちのレッスンごとに聴きに來てくれる熱心な急造ファンもできて、楽しい演奏旅行ができました。

また、夕食後はいつまでも明るいデッキに出て、本並先生のアコーディオンに合わせて歌った“甲板歌声喫茶”よろしく・・・黄昏てゆく中のモスクワ郊外の夕べ」は忘れられないものになりました。

そんな第一回目の経験が元になり、私は勝手にロシア民謡三大聖地はボルガ、アムール、バイカル湖と命名して旅行企画を進めました。

もちろん指揮者はいつも本並先生にお願いしました。2回目の2015年の時には戦後70年の節目でもあったことから、満蒙開拓青少年義勇兵で八路軍にも加わった稀有なご経験をお持ちの藤後博巳さんをご紹介いただき、合唱交流に“戦争の語り部”の要素が加わりました。

極東では、アムール河を遊覧、シベリア抑留者を乗せたシベリア鉄道にも乗り、1945年終戦間際の8月9日に不可侵条約を破ってなだれ込んできたソ満国境をバスで繋いでハルビンまで旅をしました。その時はハバロフスクの日本人墓地でしっかり伴奏をして鎮魂の歌を歌いたいという本並先生の強い希望で電池式の携帯ピアノまで持参していただきました。



その他、第一回目のボルガクルーズは本流のボルガ河をニジニ・ノブロドから乗船して、第二次世界大戦でことごとく破壊された広島との姉妹都市ボルゴグラードまでの旅。そして、コロナ感染蔓延の前年(2019年)に10万人の観衆の前で3万5千人が一同に歌う「タリンの音楽祭」にもいらしていただき、合唱と名の付く旅にはすべて指揮をとっていただきました。

先生に感謝してもしきれない点は、旅行後に造っていただくCDやDVD。

旅行後にいつもどっさり送っていただくそれらは、もちろん思い出の縁ではありますが、貴重な交流の記録であり資料に他なりません。そして、この秋には、先生の指揮者人生60周年を祝う意味も込めまして、奈良県―サマルカンド州(ウズベキスタン)友好提携を記念する合唱交流の旅の指揮も執っていただきます。



何か、書き出したら、思いのほか長くなり、退屈かもしれませんが、本並先生との邂逅が私の晩年の仕事に大きな張りりと希望をもたらしてくれました。感謝してもしきれません。

また、吉川様には、こんな機会を与えていただいて心より感謝いたします。ありがとうございました。

滝澤 恭斗 (ユーラストラベル) 2022.6.23